

〔特産・伝統野菜の活用および生産性向上〕

亀戸ダイコンの栽植距離と生育

野呂孝史・森 研史

(江戸川分場)

【要 約】 極端な疎植条件では、生育は早く、また品質も良好であるが、密植条件では、生育は劣り、根部の異形を生ずる傾向がある。従って、ハウス栽培における栽植密度は1㎡あたり 30 株前後(例えば栽植距離 20 cm×15 cmなど)が適当である。

【目 的】

亀戸ダイコンは露地および施設栽培に導入され、生産者により栽植距離など栽培条件も異なる。本試験は栽植距離が生育に及ぼす影響を明らかにするために行う。

【方 法】

供試品種は、‘在来亀戸(鈴木系)’を用いた。播種はパイプハウスに10月3日、施肥は10aあたり3要素成分量 15 kgの全量基肥とした。試験区は①条間 25cm×株間 20 cm(1㎡あたり 20 株)②25cm×15 cm(同 26 株)③25cm×10 cm(同 40 株)④15cm×15 cm(同 44 株)⑤15cm×10 cm(同 66 株)の5区を設けた。収穫調査は播種後 63 日の12月5日および播種後 70 日の12月12日に行った。各区 20 株2反復。

【成果の概要】

1) 葉重および根重(図1, 2, 3):地上部の生育は栽植距離が狭くなるほど劣った。播種後 63 日調査時から 70 日調査時の葉重の増加は多くの試験区で 10%前後を示し、大きな差異はみられなかった。地下部も栽植距離が狭くなるほど劣ったが、その区の差異は葉重より大きかった。また根重の増加も各区とも認められたが、特に最も密植である 15cm×10 cm区および最も疎植の 25cm×20 cm区の増加が顕著であった。

葉重/根重の値は栽植距離が狭くなるほど大きくなり、密植の影響が確認された。

2) 根形(図4, 5, 6):根長は両調査日とも栽植距離が狭くなるほど劣ったが、播種後 70 日時の増加は 15cm×10 cm区および25cm×20 cm区で著しく、これが根重増加になったと考えられる。根径も栽植距離が狭くなるほど低値を示し、また播種後 70 日調査時の根径増加は 15cm×10 cm区が少なかった。

根径/根長の値は栽植距離が狭いほど大きく、密植により短根化した。なお 15cm×10 cm区および 25cm×20 cm区の両区は播種後 70 日調査時に本値の低下がみられた。

播種後 63 日において、収穫適期であったのは 25cm×15 cm区で、25cm×20 cm区は根長がやや長くなった。しかし播種後 70 日でもス入り始めであり、良品であった。25cm×10 cm区および 15cm×15 cm区はやや短い、播種後 70 日では根重、根径から収穫期と判断された。

3) 以上、極端な疎植条件では、生育は早く、また品質も良好であり、それに対し、密植条件では、生育は劣り、根部の異形を生ずる傾向がみられた。従って、ハウス栽培における栽植密度は1㎡あたり 30 株前後(例えば栽植距離 20 cm×15 cmなど)が適当と考えられる。

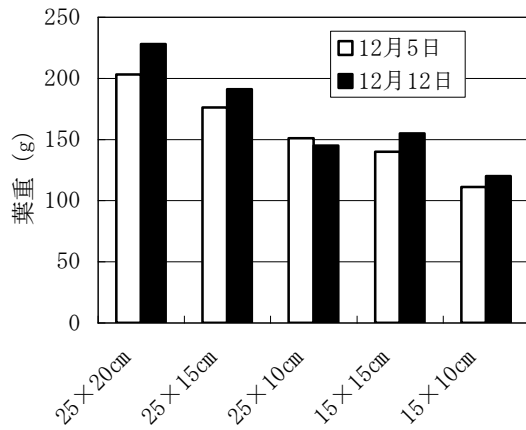


図1. 栽植距離と葉重

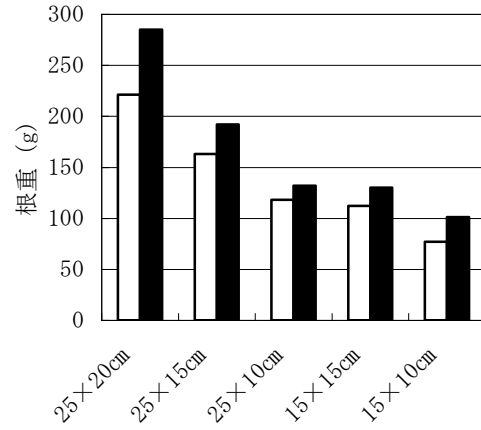


図2. 栽植距離と根重

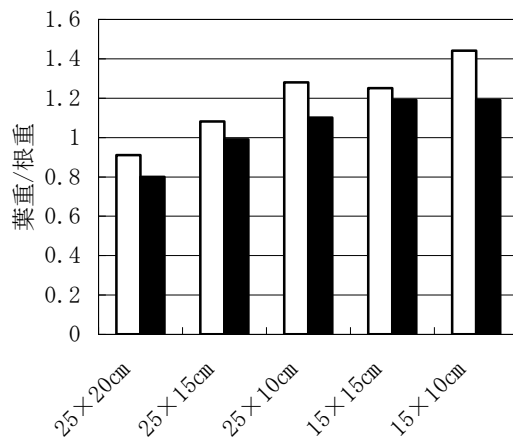


図3. 栽植距離と葉重/根重

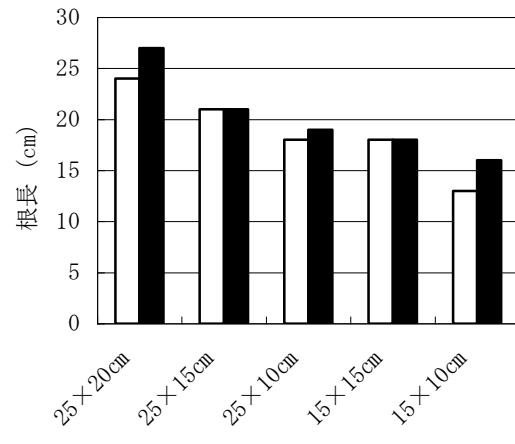


図4. 栽植距離と根長

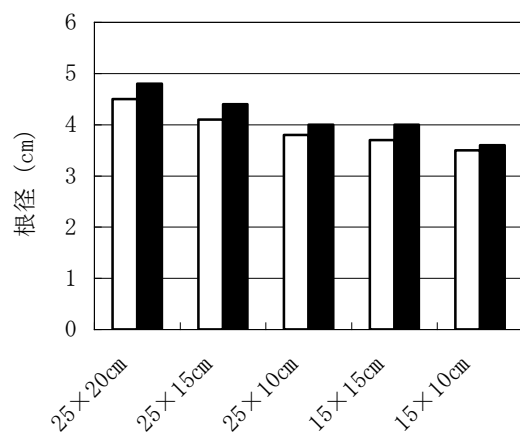


図5. 栽植距離と根径

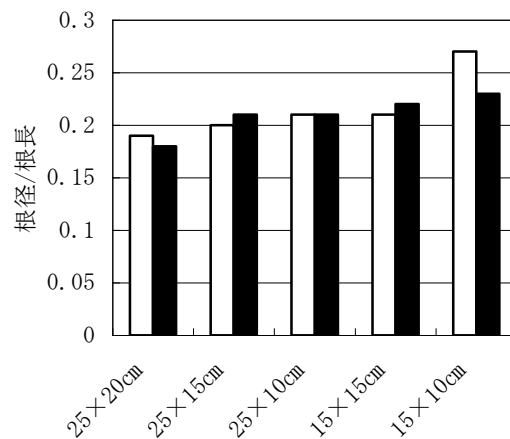


図6. 栽植距離と根径/根長